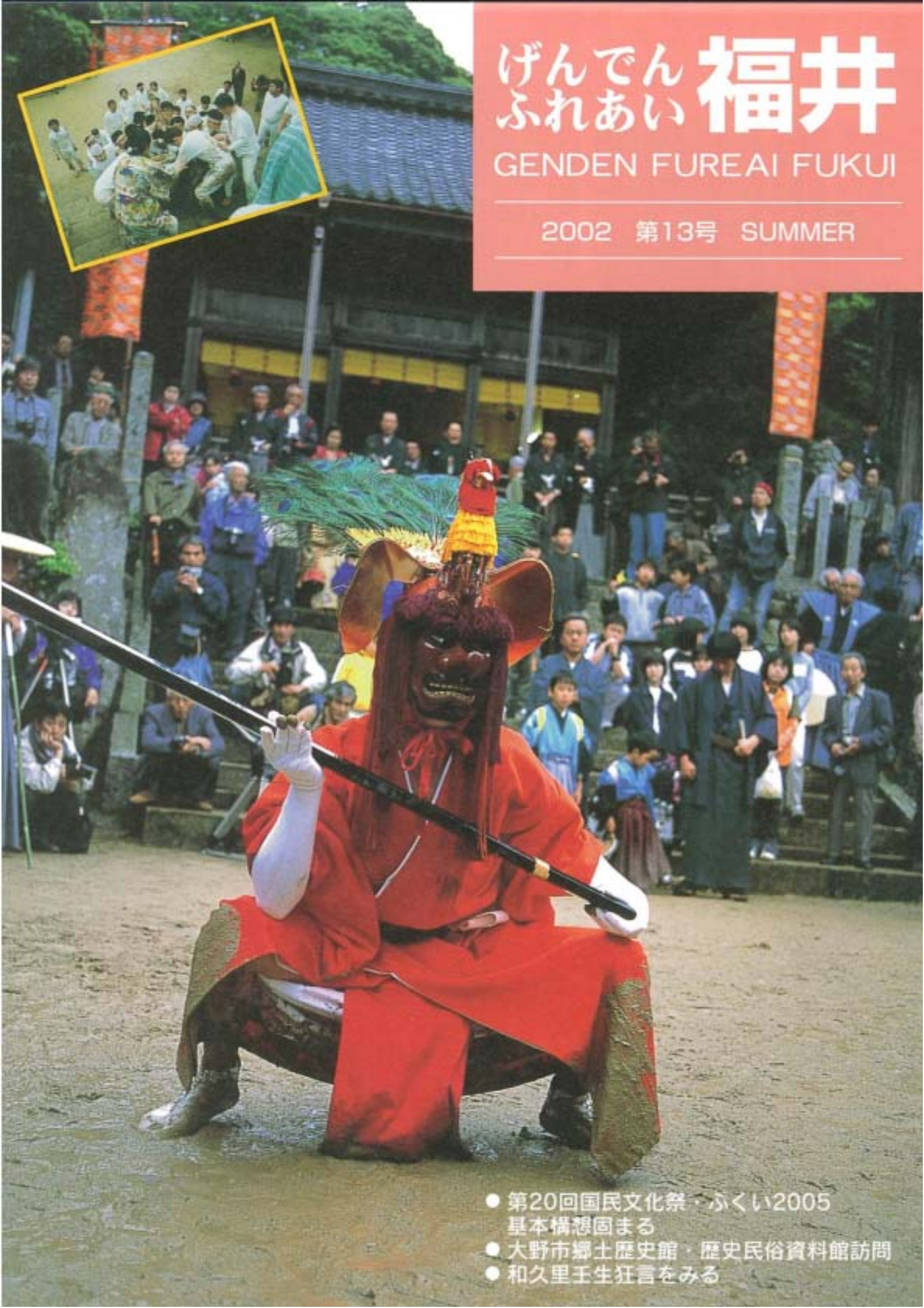


# げんでん 福井 ふれあい

GENDEN FUREAI FUKUI

2002 第13号 SUMMER



- 第20回国民文化祭・ふくい2005  
基本構想固まる
- 大野市郷土歴史館・歴史民俗資料館訪問
- 和久里壬生狂言をみる







# 第20回国民文化祭・ふくい2005 基本構想固まる



ハーブの演奏で開幕した第1回国民文化祭オープニングフェスティバル

事業内容や開催日、開催会場の決定案などを折り込んだ「実施計画大綱案」を決定することになっています。

国民文化祭は「文化の団体」ともいわれ本県では初の開催で、本県で開催される平成17年は第20回という節目を迎える記念すべき祭典となります。

基本構想では、まず、基本方針として、▽県民総参加で創り上げる国民文化祭、▽伝統文化を継承し発展させる国民文化祭、▽「ふくい」文化を発信

平成17年に福井県で開催される第20回国民文化祭の基本構想が近く国の国民文化祭実行委員会に諮られ正式決定します。県や文化団体などでは、この構想に基づき「国民文化祭・ふくい2005」の開催に向け、本格的な取り組みに入ることにしています。

この基本構想は、昨年の7月に第20回国民文化祭基本構想検討委員会（会長・小野光太郎県文化振興事業団理事長）を設置し、県民から広くアイデア

## テーマ 福のくにくから ふくらむ文化 羽ばたく未来

を募集するなどして基本方針をはじめテーマや事業内容などを話し合ってきました。今年第3回委員会が構想の大枠ともいえる案を決定し、5月に栗田知事に報告したものです。

県では、4月から国民文化祭グループ（電気ビル内）を設置し、その準備を進めるとともに本年度中に、福井県実行委員会などを設け、国民文化祭の

## '05国民文化祭 本県らしさを全面に

する国民文化祭、▽国内外との交流を深める国民文化祭、▽新しい試みによる国民文化祭」とする5つの方針を打ち出しています。

大会の名称は、「第20回国民文化祭・ふくい2005」とし、テーマは「福のくにくから ふくらむ文化 羽ばたく未来」を掲げることにしています。この趣旨は、福井の美しく豊かな自然、歴史、文化の地域資源を生かし、夢、希望、新たな文化をふくらませ、心豊かな未来へと飛躍させるきっかけにし



新しい潮流と交流が進んでいる「ふくい県民文化祭」

主権事業の実施分野では、すでに本県では本年度で第3回目を迎える国民文化祭の音楽、美術、舞踊、演劇などの分野別フェスティバル方式の事業に加え、特に本県らしさを出した事業として、▽ハーブ・マリンパフェスティバル、▽恐竜、縄文、朝倉文化フェスティバルなどのほか、▽人と織姫と文化や暮らしと精神文化をテーマにしたシンポジウムを盛り込んだ36の事業を計画にあげています。

また、国民文化祭の開催気運と参加意欲を高めるため、マスコットキャラクターやイメージソングを制作するなどして開催ムードを高めていくことにしています。

福井大会は来年8月8日(金)～12日(火)の5日間、開会行事として総合開会式をサンロード福井(武生市)で、パレードは福井市街地で開催されます。

演劇、美術、音楽など18部門の会場（前頁別表のとおり）は、県内7市1町で行われ、全国の高校生が発表や展示を繰り広げることになります。

**福井大会**  
8/8～12  
7市1町で



第27回全国高校総合文化祭福井大会がスタート  
（原図は福井工大附属福井高校3年村松悠子さん作）

平成14年度プリ総合開会式及び各部門リハーサル大会（7/25以降分）

| 開催部門         | 併記名称                    | 開催会場                         | 開催日程                                     | 主催    |
|--------------|-------------------------|------------------------------|--|-------|
| プリ総合開会式      | 第13回福井県高等学校総合文化祭総合開会式   | サンロード福井                      | 11/8(金)～11/9(土)                          | 県庁    |
| 音楽・工芸        | 第40回福井県高等学校音楽祭          | 県立美術館<br>福井市立中央公民館<br>(25日)  | 7/25(土)～7/26(日) 29日                      | 県立美術館 |
| 演劇           | 同上                      | 県立美術館<br>ユー・アイ福井<br>(11日～4日) | 6/1(土)～6/2-3(日)                          | 県立美術館 |
| ダンス・演劇・演劇・演劇 | 第40回福井県高等学校ダンス・演劇・演劇・演劇 | 県立体育館                        | 9/16(日)                                  | 県立    |
| 演劇           | 第56回福井県高等学校演劇祭          | 福井市立中央公民館                    | 9/20(土)～22(日) 23(日)                      | 県立    |
| 演劇           | 福井県高等学校演劇大会             | 県立中央公民館                      | 10/20(日)                                 | 県立    |
| 演劇           | 第40回福井県高等学校演劇大会         | 福井市立中央公民館                    | 11/9(土)～11/10(日) 11/11(日)～12(日) 11/13(日) | 県立    |
| 日本橋          | 第40回福井県高等学校日本橋          | 福井市立中央公民館                    | 11/13(日)                                 | 県立    |
| 演劇           | 同上                      | 同上                           | 11/13(日)                                 | 県立    |
| 演劇           | 同上                      | 同上                           | 11/14(日)                                 | 県立    |
| 演劇           | 同上                      | 同上                           | 11/14(日)                                 | 県立    |
| 演劇           | 同上                      | 同上                           | 11/14(日)                                 | 県立    |
| 演劇           | 同上                      | 同上                           | 11/15(日)                                 | 県立    |
| 演劇           | 同上                      | 同上                           | 11/15(日)                                 | 県立    |
| 演劇           | 同上                      | 同上                           | 11/17(日)                                 | 県立    |
| 演劇           | 同上                      | 同上                           | 11/22(日)                                 | 県立    |
| 演劇           | 同上                      | 同上                           | 11/23(日)                                 | 県立    |
| 演劇           | 同上                      | 同上                           | 11/29(日)～11/30(日)～12(日)                  | 県立    |



## 高校文化活動をたずねて③ 羽水高校 邦楽部



日本音楽部門  
マスコット・キャラクター

全高総文祭'03福井大会を1年後に控え、県内高等学校文化部の現場では、今どのような活動が進められているのか。一部活動のねらいや大会への抱負などをお伺いするため、今回、県立羽水高等学校邦楽部を訪ねました。

### 心の泉より湧き出る文化大河となり海を成せ'03福井

6月26日(水)午後4時半頃、羽水高校邦楽部顧問の嶋山亨先生の案内で、部活の練習場となる礼法室を訪ねました。部員のみなさんは、すでに手を並べ終え、調弦に取り組んでいました。

嶋山先生の話によりますと、同校の邦楽部の創部は古く、昭和45年といわれ、32年の伝統を持っています。現在県内高校で日本音楽の部活を行っている学校は12校ありますが、最近、日本古来の伝統文化を知る貴重な体験学習を学校教育の中に取り入れることが必修となっており、これからの傾向もあり、同校では、

難しい曲に挑戦し

成長続ける頼もしい存在



邦楽部顧問  
嶋山 亨先生

顧問の嶋山先生に同部への期待を伺ったところ次のように語ってくれました。「部員の全員が初心者で、楽器の楽しさが

### やる時にはやる！ 活気のある部活で

昨年度から部員が増加し、今年度は1年生3名、2年生7名の部員10名による活気な部活動が行われています。

同部では、毎週火・水・木・金曜日の午後4時半頃から2時間を部活に当て、日本音楽の専門講師石川麻紀先生(アララギ楽苑所属)の指導を受けながら、華演奏の基本から合奏技術のレベルアップを目指し、練習を重ねています。今年度の目標をお聞きすると、11月に行われる第40回県立高校芸術祭、音楽フェスティバル・日本音楽部門コンクールに古崎克彦作曲「グリーン・ウインド」を発表曲目として、金賞を目指したいと意欲を燃やしていました。また、来年は羽水高校創立40周年に当たり、さらに、全高総文祭福井大会でもありますので、この大会につなげる素晴らしい演奏発表を行う。 「羽水」の名を挙げたいと意欲込んでいました。



華演奏の練習に励む部員＝羽水高礼法室

感じられるようになるとその魅力に引き付けられるようです。そして上達するにつれて、誰もが種やかで心優しい人柄になっていくように思います。毎日の練習も休むものはいなく、自分達で選んだ難しい曲に挑戦しているのを見て、羽水の邦楽部は、今大きく成長しつつあるのを頼もしく思っています。」

### 目標はコンクール優勝



邦楽部長2年  
小西典子さん

私たち羽水高校の邦楽部はみんながすごく明るく、やる時にはやる！というような活気のある部活です。その基を作ってくれているのは、顧問の嶋山先生と講師の石川先生です。嶋山先生は大変おもしろく、部の笑いを誘ってくれ、自然と部の雰囲気やわらわらしてくれました。また、石川先生はとても熱心な先生で曲の感じを最大に引き出し、くれ、私たちに大きな自信を与えてくれます。このような先生方に囲まれ、曲にも自然と力が入り、曲合わせの時はみんなの心を一つにし、楽しく合奏することができるようになりました。今私達の中で一番達成したい目標があります。それは年に一度行われるコンクールで優勝することです。これを達成するにはかなりの努力が必要になりますが、今一つ一つの課題を精進にクリアしてみんなで素敵なハーモニーを奏でられるように頑張りたいと思います。

13年度音楽フェスティバル日本音楽部門の発表  
＝武生市文化センター



シリーズ  
ふくいの  
伝統芸能

県指定無形民俗文化財

# 馬鹿ばやし

福井市



太鼓・笛のはやしに合わせて乱舞する馬鹿ばやし

福井市手寄2丁目に鎮座する火産靈神社の春季祭礼に約400年の歴史を持つといわれる伝統芸能「馬鹿ばやし」(県指定無形民俗文化財)が奉納されます。

今年も5月24日夜、同神社の神楽殿で、地区の保存会の人たちなどの手で披露されました。面々の役者が滑稽なしくさで、太鼓や笛の囃子に合わせて乱舞。集った観客は、奥深い伝統芸能に、じつくりと堪能していました。

面々こっけいなしくさ

## 太鼓力強く乱舞

囃子の囃児や同保存会の子どもによる馬鹿ばやしも披露され、見物した市民から大きな拍手が送られていました。

午後7時ごろ、ギョロリとした目の「でめきん」や青い顔の「青坊主」といった面をかぶった保存会の役者達が、小太鼓や横笛、鉦の囃子に合わせて登場、舞台の中央に据えられた大太鼓から身を乗り出して八手を振りかざしたり、つけた面のキャラクターをあらわしたしくさに、観客の目を魅了していました。また、身重の女の「お多福」が恥ずかしそうな所作をみせれば、両脇から神官役の「おさな」と「おうな」が帯を持っておどけ、最後に「大べしみ」が激しい動作と雄たけびで締めくくっていました。

保存会では後継者育成の一環として、子供馬鹿ばやしを組織しており、東郷保育



滑稽なしくさで好演するお多福・翁・姫

## 芸能と面のいわれ

「馬鹿ばやし」は、一説によると、今から約400年前の戦国時代から伝えられているといわれ、一乗朝倉氏の御用商人多内善四郎が火祭りのために、能面や狂言面などを秋葉神社(火産靈神社の旧名)へ奉納し、地元民がその面をつけてのお囃子を伝授したのが始まりと伝えられています。

面は、べしみ、ひよっこ、でめきん、さばり、お多福、翁、姫、蛙、猿など現在37面が引き継がれています。近年専門家に鑑定を依頼したところ、「べしみ」は能面、



練習の成果を披露した子供馬鹿ばやし



春季例祭を迎えた火産靈神社正面

## 火産靈神社の由来

火産靈神社は、福井藩祖松平秀康公が常陸国結城(現・茨城県)から越前(福井県)に移封されるに及び、城下の防火の守護神として、城之橋通りの現在地(手寄2丁目)に勧請された神社であるといわれています。現在「火祭り」の神事は伝承されていませんが、「馬鹿ばやし」芸能が、毎年当神社の春季例祭に奉納されています。

かつては別名「秋葉神社」といわれ、市民に親しまれてきました。

## 保存会継承者育成に力

芸能披露のスタイルは、神社の神楽殿で、固定された舞台で行う場合と移動式の舞台で氏子区域を練り歩く場合とがあります。戦後は毎年春季例祭日に飾りつけた自動車で町内を巡行していましたが、近年は神社の神楽殿で奉納されています。記念大会などには、山車を曳いて町内を練り歩くことも計画されています。

同保存会では、この伝統ある芸能を保持し、永く後世につたえようと、後継者の育成に力を入れています。特に10年前から地元小学生たち呼びかけ、子供馬鹿ばやしを組織し、芸能の伝承に努力しており、春の例祭には、練習の成果を発表する場を設けています。更に地区の保育園でも教材にとり入れ、伝統芸能の保存のための一役をなっています。



県指定無形民俗文化財

# 和久里壬生 狂言をみる

小浜市和久里の西方寺で、4月12日から14日までの3日間、宝篋印塔（通称「市の塔」）を供養する7年祭りが行われ、県無形民俗文化財に指定されている「和久里壬生狂言」が6年ぶりに奉納されました。薬苺きの屋根、檜の葉や竹で組んだ特設舞台では、着面の無言劇がユ一モラスに次々と演じられ、趣深い民俗芸能に、客席から「おひねり」が投げられるなど、大きな拍手喝采が送られていました。

## 6年ぶり 着面無言劇9曲に喝さい

和久里壬生狂言は、12支の子と牛の年に行われる「市の塔」7年祭りの供養として奉納されます。

この地で演じられる狂言の由来は定かではありませんが、和久里の狂言が壬生狂言といわれるように、京都の壬生寺で始まった700年の歴史をもつ「壬生大念仏狂言」の流れを汲むものといわれ、江戸時代中頃に小浜に伝わったとされています。和久里ではこの狂言が明治時代から演じられるようになり、昭和17年（1942）までは、6年毎に演じられ奉納されてきました。しかし、戦後の荒廃や昭和28年（1953）の大嵐水害により中断し、昭和35年（1960）に一度復活しましたが、その後の社会情勢の変化等により再び中断されていました。昭和53年（1978）、この狂言出演の中心となる壮年グループ「轟六会」が復活、区民あげての熱意がみのり、18年ぶりに、見事復活を果たし、今年は復活5回目の奉納となりました。



村人手廻りの特設舞台

## 市の塔の来歴



7年供養会が行われた「市の塔」=和久里・西方寺境内

今から700年程前の南北朝時代、小浜の代官長井雅兼が戦に敗れ、出家し朝阿弥と号し、和久里に西方寺を創建、住持となりました。その朝阿弥が延文3年（1358）天下泰平、万民の幸せを祈願し、宝篋印塔を建立したといわれています。その後、この塔は、現在の今宮区の魚市場、更に男山八幡宮の野菜市場



に再移動され、これらの「市」の象徴となったため、この塔を「市の塔」と呼ばれるようになったといわれています。明治6年（1873）には道路改修などの事情から朝阿弥ゆかりの地西方寺境内に移されたといわれ、現在に至っています。

## 手造りの檜舞台に 趣き深く・笑いを誘う

演じられる舞台は、区民総出で、3月下旬から半月かけて造られます。ヒノキの柱に、屋根は薬苺葺き、幅約6m、奥行約6m、前方はヒノキの葉で飾り、竹で組み合わせた村人手廻りの特設舞台です。

和久里の狂言は、9曲の演目を伝えてお



舞台裏で鐘（鯛口太鼓）・太鼓・笛の3種の楽器を演奏する人々

り、鐘（鯛口太鼓）、締太鼓、笛の3種類の楽器を10人程度の構成で演奏。単調な音楽に乗って、仮面をつけた演者が橋懸から本舞台へ登場し、台詞のない無言劇を演出。いわゆるパントマイムの狂言が演じられます。

演目の内容は、京都壬生狂言のものより素朴で簡潔ともいわれ、演技も滑稽に演じられるものが多く、観客と一体となった楽しく、貴重な民俗芸能を伝えていきます。

また、用いる面は、以前は紙製のものでしたが、現在は、昭和59年奉納の時、会員自らが一人一面を目標にして彫ったものが使われております。

出演者は、区の青年壮年グループ（轟六会）が中心に行われ、今年は43人が出演、1月下旬から同区公会堂で練習を重ね、特に今年には衣装も新調されて、一段と力のこもった伝統演技が披露されました。





目代の裁きをうける「炮烙割り」の一場面

町に新しい市場を開く計画を立てた目代（役人）が「一番に店を開いた者には免税する」という立て札を立てます。一番初め

### 炮烙割り

## 写真で見る 演目紹介

3日間とも「銀鬼角力」「花盗人」「炮烙割り」「とろろ滑り」「座頭の川渡り」「愛宕割り」「狐釣り」「腰折り」「寺大黒」の9曲が演ぜられました。各曲目とも「勧善懲悪」「因果応報」などの教訓を含んだユーモラスな無言の劇に、会場を埋めた観客たちは、役者の一つ一つの動きを食い入るように見詰め、好場面には「おひねり」が舞台上に投げ込まれるなど演目が終わるたびに大きな拍手が沸き起こっていました。

## ユーモラスの中 人生教訓も

に来た羯鼓（太鼓）売りが立て札を見て、大喜びをして、ひと寝入りします。二番手に現れた炮烙（皿）売りが、一番乗りをしようと持ち物をすりかえます。二人は大争いとなり、そこへ現れた目代に裁きを請うと、目代はそれぞれの持ち物を近くの木の幹に打ちあてよと命じます。炮烙売りが困っていると目代と羯鼓売りに後ろからつきとばされ、大切な炮烙を砕かれてしまいます。世を欺き、人を欺いた罰を説いたもの。〈登場〉目代、羯鼓売り、炮烙売り



秘密がばれ、寺から連れ出される寺大黒ら

### 寺大黒

昔の僧侶は厳しい戒律があり、妻帯は許されませんでした。壇中の総代が供をつれて寺参りにやってきます。若い住職は、見つかっては一大事と、大黒と赤ん坊を、お厨子の中へ隠します。総代はお厨子を開けて欲しいと頼みますが、言いにくめられて帰ります。総代は、今日は住職の様子がおかしいと寺へ引き返し、供の者がお厨子の扉を開けて、秘密がばれてしまいます。総代はあやまる住職と大黒を寺から追い出します。〈登場〉僧侶、大黒（僧侶の妻）、大黒、供

### 狐釣り



狐・狩人3人を馬に悪気揚々の退場

わなを持った狩人頭と狩人2人が登場。キツネの出そうな所にわなをしかけて、物陰にかくれて待ちます。利口なキツネは坊

さんに化けて、狩人たちに術をかけて眠らせてしまいます。だまされた狩人たちは、キツネのいろいろな芸をまねさせられ、最後は馬にされます。その馬にキツネがまたがって悪気揚々と退場。見事仲間の敵を討ちます。〈登場〉キツネ、狩人頭、狩人2人

### 花盗人



「花盗人」酒を交わすコマ

大黒が、供を連れて花見にやってきます。供の者に酒を注がせ、たらふく飲んで、大黒は寝てしまいます。供も、大黒が寝たのを確かめて、盗み酒をし、酔っ払って寝てしまいます。そこへ、盗人が現れ、大黒の懐から金を盗みとります。気がついた大黒は、盗人を捕え、供に縄を持ってくるように命じますが、その縄がない。供はやつとワラを探して縄をなおうとしますが、酔っているのと盗人が邪魔をするので、なかなか行うことができません。やつと縄ができましたが、間違って主人を縛ってしまいます。日頃から何事も備えが大切ということ面白く仕組んだ物語。〈登場〉大黒、供、盗人

### 座頭の川渡り



座頭の川渡りに大石を置いたずらする悪人

座頭（盲目の人）の親分が自分と酒を酌み交わしています。そこへ悪人が現れて、自分のつく酒を横取りしてしまいます。座頭二人は、あきらめて帰る途中、川に出ています。自分の背中に悪人が先に乗って川を渡ります。対岸で親分が合図するのでまた引き返して親分を運びます。悪人はまたいたずらして、自分の足元に大きな石をおき、二人ともひっくり返るのを見て笑います。悪人への戒めの狂言。〈登場〉座頭2人、悪人





大野市指定文化財である大野市郷土歴史館＝大野市城町2-13



【館内案内図】

建物は、明治中期の代表的官庁建造物としては、全国でもめずらしく、貴重な構造で、同市指定文化財として保存されています。入館前に外観を眺めてみました。

屋根は入母屋造り、瓦葺「懸魚と木連格子の妻飾り」があり、車寄せ虹梁上には「透かし彫り」があります。社寺建築を思わせる

明治中期の貴重な官庁建造物としての歴史をもつ大野市郷土歴史館。ここに明治、大正、昭和の時代変遷の中で、大野の人々のくらしや生活を伝える多くの民俗資料が所蔵されていることを聞き、同歴史館を訪ねました。引き続いて、北陸の小京都といわれる城下町、越前大野、特に、幕末、壮大なスケールで藩政刷新に取り組んだ大野藩の歴史などに魅せられ、同市歴史民俗資料館を訪ねました。

### 本館は貴重な明治の建造物

年の一環として、郷土大野の民俗文化財を後世に正しく伝えていくために、資料収集・保存・活用する施設として開設しました。



懸魚と木連格子の妻飾り



透かし彫り

大野市郷土歴史館の建物は、明治29年（1896）大野治安裁判所として、旧柳町に建てられ、昭和43年（1968）まで大野治安裁判所として使用されてきました。同年、大野市が本館、守衛室を譲り受けて、現在地、梅道社（大野藩主土井利忠を祀る）境内に移築され、明治百年記念事業（1968

### 郷土のくらし・生活など多くの民俗資料展示

館内に入ると、中央の廊下を挟んで、両側に展示室が設けられ、入口から向かって左側「住」「食」「衣」「生活」の分野で、主に明治、大正、昭和中期頃までの大野の人々のくらしや生活用品などを収集し、その変化を促す数多くの民俗資料が展示されています。



生業の諸道具が並べられた展示室



昔の生活用品などを展示



梅屋のテコンボ  
[座り童子]

「生業」分野の展示室では、農・林業の農耕具などの変遷、また、農家の副業として行われた紙すき、養蚕、むしろ等製造諸道具が並べられ、近代化されるまでの生業の歴史を知ることができます。

「大野案内」室では、明治から昭和中期頃までの時代背景に添った学校、諸行事や交通、産業、農村風景の記録写真を掲示しています。

「生活」分野では、商家の道具、看板、陶磁器等が陳列され、特に茶屋の看板や菓子箱のまんじゅう籠などがめずらしく目立っています。

「衣」の分野では、着物、履物、雨具等、「食」の分野では、臼、食物の貯蔵用具や炊事器具が、「住」の部では、暖房具、いすめ、灯具等の生活用品が所狭しの感じで展示されています。

いるほか、昭和前期の戦争の思い出を綴る勤勞奉仕団、愛国婦人会の食糧地産作業や遺児の集団修練の記録写真がのこされています。また、大野の城下町の案内、産物一覧が掲示されています。

「近代1部」の部屋では、消防用具の変遷を中心に紹介され、また、大正時代の消防手押しポンプ、昭和30年まで使用されたという蒸気消防ポンプが展示され、時代の推移と発展をたどるなつかしさに接することができます。

「近代2部」では、江戸末期、玉木治助が創設した「梅屋人形」のいわれを解説し、「座り童子」をはじめ、天神、七福神、福助などの民芸品を展示。その他花嫁衣裳や戦中の軍服等近代歴史を伝える資料が並べられています。



# 歴史民俗資料館

訪



大野市歴史民俗資料館玄関＝大野市天神町2-4

大野市歴史民俗資料館は、大野市の縄文時代から近代までの歴史資料を収集・保存・展示し、郷土への理解を深めていただくための施設として昭和61年に開館しました。展示室に入ると、まず左手に、大野市の立体地図が展示してあり、各遺跡や建造物などの位置関係を見ることが出来ます。そして、時計回りに原始、古代、中世、近代、幕末の順に歴史資料が展示され、最後に大野の歩んできた略年表が配置されています。特に、幕末、独自の創意と熱意をもって大野藩政の改革にとり組んだ土井家7代藩主利忠以降の藩政資料が多く展示され、また、展示中央には、大野のシンボルともいえる藩船「大野丸」の1/10模型と関係年表、資料等が展示してあり、当時活躍した大野丸の姿を今に伝えていきます。

## 原始時代

市内の縄文遺跡(8ヶ所確認)

はすべて段丘あるいは扇状地の湧水を求めて成立しています。発掘調査は、佐開遺跡と右近次郎遺跡で行われ、調査結果では、竪穴住居跡や多くの土器片が発見され、復元された土器のうち「釣手土器」は珍しく、注目されています。

古墳群については、山ヶ鼻古墳の発掘が行われ、前方後円墳で、鉄剣、祭祀土器が出土、復元された高杯等が展示されています。

## 大野藩主 土井忠利

## 壮大なスケール、藩政刷新をみる

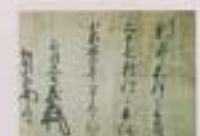
**古代・中世** 大野盆地の東南にそびえ立つ荒崎岳は、早くから神の天降る山としてあがめられ、また、飯降山は御岳山と呼ばれ、十一面観音が安置され、荒崎神社の仏頭など山岳信仰の資料が並べられています。修行者の霊場としての白山信仰についても、別山頂出土の経筒や白山頂出土の三鈷柄刺(部分)などが展示され山岳信仰の歴史を

伝えていきます。

仏教に関しては、宝慶寺を創建した寂禅・道元禅師像など仏教美術資料が展示されています。

## 近世

朝倉時代の入って、大野における朝倉家の動向を知る書状、平泉寺をめぐる一向一揆、朝倉義景の大野で最後を遂げた



新倉義景書状



朝倉義景書状



土井利房入封の鉄砲証文

## 幕末

史実などの資料が並べられています。特に大野の町づくりにとって大恩人ともいっべき金森長近の書状、大野城をはじめ街路、商家、寺院が立ち並ぶ城下の都市づくりを現在とあわせて想像することができます。

土井利房が大野4万石に入部して始まりですが7代藩主土井利忠は、独自の創意と熱意で、藩政改革に取り組みました。その内容は、▼明倫館の開設と図書充実 ▼種痘の実施と病院の開設 ▼西洋砲術採用と軍制改革 ▼洋学館開設と洋書の出版 ▼蝦夷地開拓の計画 ▼大野屋の開設 ▼大野丸の建造と就航 ▼北蝦夷屯田の実行と壮大なスケールによる改革でした。天保13年(1842)「更始の令」という利忠の直書によってはじめられ、まず、藩財政の建て直しと、人材登用を柱にして進められました。歴史室では、大野丸をはじめ蘭学、蝦夷地開拓、大野屋関係等の関係書状、図表、図書などが展示され、当時の近代化政策、全国各地で展開された重商主義的経営方針による大野屋商法など大規模な藩政刷新の歴史を伝えていきます。



「大野丸」1/10模型

## ◆大野丸の建造と就航◆

幕末、行き詰まっていた藩財政を建て直すため、大野藩は藩政改革の一環として、蝦夷地(現在の北海道)進出に着目。その足がかりとして、箱館(現在の函館)に藩店大野屋を開設しました。そして、交易の交通手段として安政3年(1856)藩船の建造に着手、安政5年、2本マストの当時では最新技術の洋式帆船が出来上がり、同年7月品川沖で進水しました。建造費7400両、長さ18間(32.7m)幅4間(7.2m)深さ3間(5.4m)、大野丸と命名され、マストの上に日の丸、船尾に土井家の紋章おもだかの旗を掲げました。

古田鎮蔵が船長に任命され、乗組員30名、8月6日ともづな解き、神戸、下関を経て母港となる教賀に回航しました。安政6年3月、男女航海の途についた大野丸は、以後、年1~2往復の割合で、教賀~箱館間を航行し、蝦夷地へはたばこ、畳表、紙類、呉服物、むしろ、酒、味噌等を選び、帰路には、昆布、さけ、にしんなどの塩魚、大豆、石炭など交易品を運搬しました。元治元年(1864年)8月、根室沖で座礁、沈没するまで、わずか6年の航海でしたが、蝦夷地との交易によって、藩財政の再建に寄与しました。



オランダの許書(大野高等学校蔵)



## 近松門左衛門 (鯖江市)

記念碑に辞世文・碑に「生誕の地」強調

元禄時代の大文豪で、浄瑠璃・歌舞伎作者の第一人者近松門左衛門がどこで生れたのか。自身の出生については近松が触れなかったため長年、数々の論争が繰り広げられてきました。解決に導いたのは戦後に見つかった家系譜。近松の出生の地は、越前、吉江説が確証を持って定着しました。

昭和53年(1978)10月、近松の「生誕の地」の結びつきを示す近松門左衛門翁記念碑が鯖江市杉本町の鯖江市立公民館横の庭園に、鯖江市、近松門左衛門奉賛会の手で建立されました。記念碑は縦約15計の庭園の奥に鎮座。正面の碑文は、京都国立博物館に保管されている近松の衣冠姿像に書か



近松門左衛門翁記念碑と扁碑

れた「辞世文」を拡大鋳造したものです。

向かって左側には、鯖江と近松の結びつきを象徴する胎碑が建てられ、近松研究の権威者、大阪市立大学、故森修教授の「近松門左衛門と吉江」と題した「解説文」が記され、ゆかりの地であること、お墨書きを碑文で表しています。

この記念碑の周囲の造園は、近松の作



庭園の入口に建てられている作家 水上勉先生揮毫の碑

## 辞世文

近松門左衛門性者杉森宇者信義平空堂葉林子之像  
代々甲冑の家に生まれながら武藝を継ぐ。三歳九脚につかへ咫尺し奉りて寸尚なく。キ骨に添て勇気知らず。随に擬て隨にあらず。賢に似て賢にあらず。ものしりに似て何もしらず。世のまがひもの。からの大和の歌ある道々。姓他 独茶。清浄の願までしらぬ事なげに口にまかせ。誓にはしらせ。一生を申りあらし。今ハの誓にいふべく。おもふべき真の一大事は。一字半すまもなき別恋。ここに心の和をおほひて。七十あまりの光陰。おもへばおほつかなき。我世経奉。もし辞世はと同人あらば。それぞ辞世。去日に。招もそののちに。残る程が。在しにははば。享保九年冬上旬。

不佞修馬期子自記春秋七十二歳  
のこれとは。おもふもあらか。うづみ火の  
けぬま。あだなる。くら水かとして

京都国立博物館所蔵の衣冠姿像の上部に記されている辞世文は、終りに享保9年(1724)中冬(11月)上旬と書かれていることから、近松が死期に近いことを知って、杉森多門(近松の子、画家)に像を描かせ自ら、辞世文を書いたものと思われる。

姓と字を正確に書いて、自分が武士の家に生まれ公卿に仕え、のち浄瑠璃作家となったことを、ユーモアを交えながら余裕をもって書き記しています。

品演劇の上で欠くことのできない三味線をも型どって設計されています。

吉江藩館跡の碑  
碑文は松平永芳氏の筆

## 近松と吉江藩

近松の父は、杉森信義、またの名を作右衛門、市左衛門といい、第3代福井藩主、松平忠昌に仕えて、3百石を禄していました。忠昌の没(正保2年・1645)後、



本年3月、ゆかりの地である吉江町に完成した近松像

5男福松丸君のために2万5千石が分知され、吉江藩が成立しました。この時、福松丸君はまだ幼く6歳であったため、養育保として御付人19名が任命され、信義もその1人に加えられています。福松丸君は元服の後、昌親と称し、明暦元年(1655)新川左京以下46名を付人として吉江に入部、この時の名列にも信義は加えられています。近松は、この時、3歳でした。その後父母と共に10余年間吉江の地に過ごしたのですが、近松15歳のとき、寛文7年(1667)頃にいたり信義は吉江藩を辞することになり、近松も父母と共に京都に移っています。

## 近松門左衛門略伝

近松門左衛門は、承応2年(1653)

吉江藩士杉森信義の次男として生まれ、本名は信盛。幼名 次郎古、通称 平馬。

信義は正保2年(1645)、丹生郡吉江の地に赴任、近松はこの時3歳。その後、父母と共に吉江の地に過ごします。寛文7年(1667)頃、信義吉江藩を辞し、父母

と共に京都に移住。上京後、公家的一条柳閣重親に仕えます。20歳の時、主人の死去にあつた後、主家を辞し、延享5年(1767)

25歳の頃、宇治加賀屋のもとで浄瑠璃作家となり。以後、国性館合戦、や、曾根崎心中、柳城反逆書、など幾多の名作を上演。享保9年(1724)11月上旬、辞

世文を書く。同22日死去、享年72歳。





# 敦賀市立博物館所蔵 逸品絵画誌上展

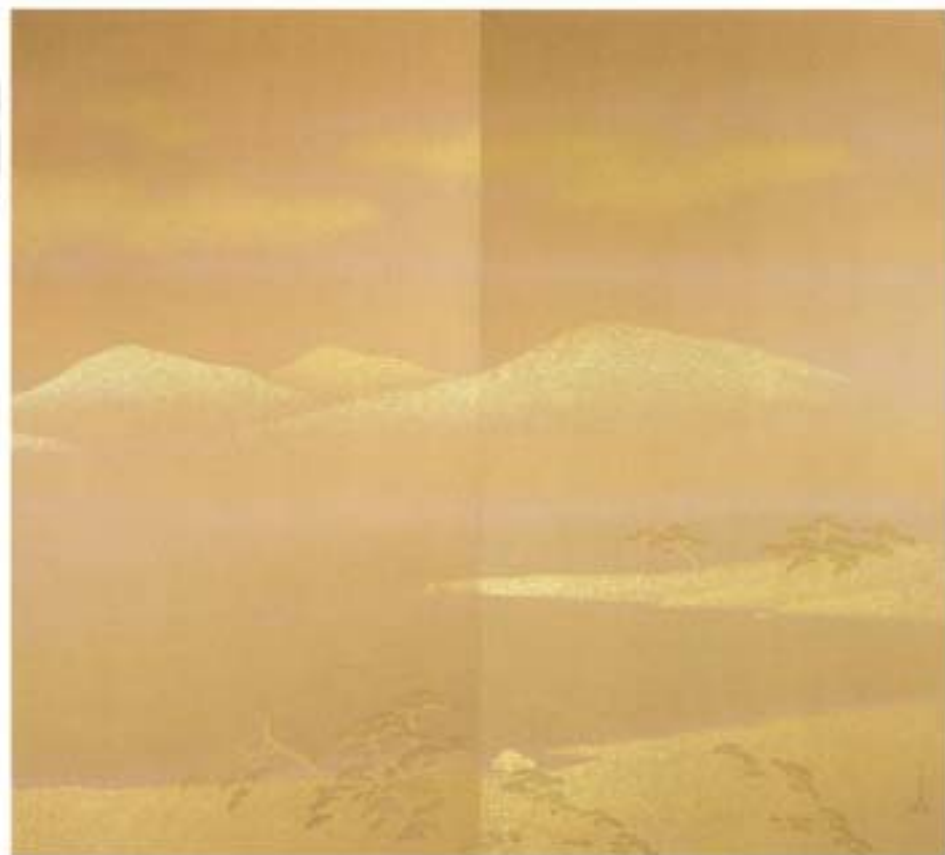
# 8

敦賀市立博物館では郷土にゆかりのある作家や師弟関係などでつながる近世・近代絵画を系統的に収集しています。

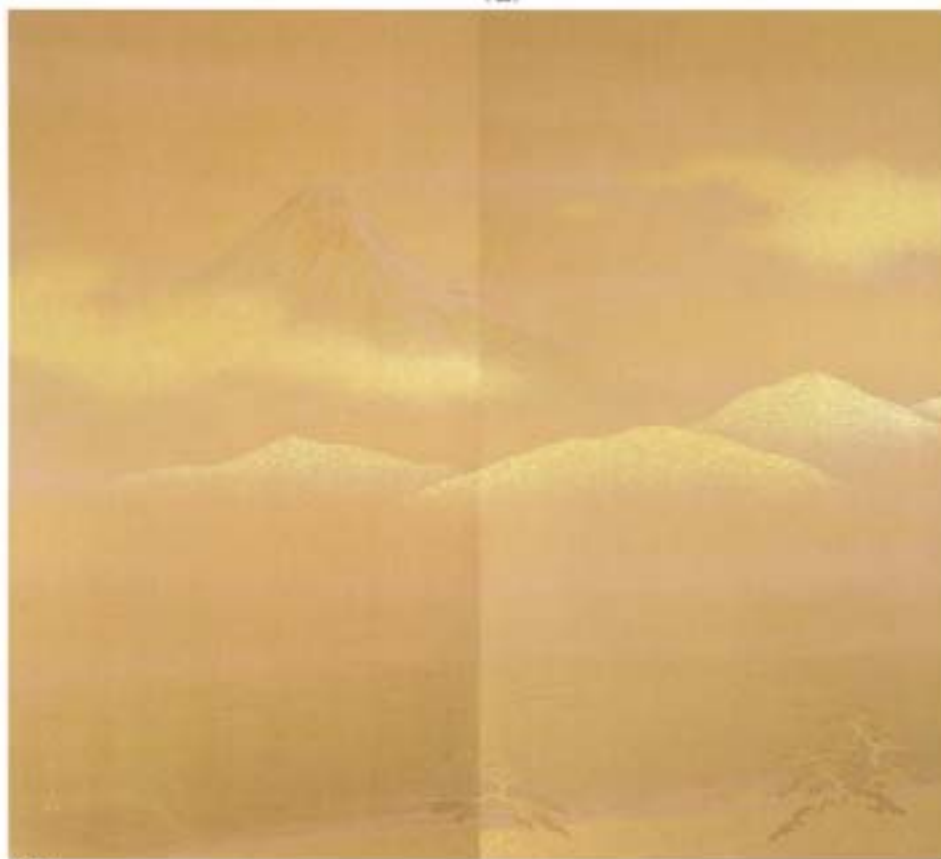
左右の屏風に連続して、雲海の靈峰富士を中心に、これに連なる愛鷹・箱根などの山々と、三保之松原の景観を、ほとんど総筆や鉛筆は用いず、金銀を素材とする泥、砂子、切箔などを駆使して、華麗でありながらも落ち着いた独自の趣を構成しています。その手法を概観すると、遠景の霞は金泥を刷毛で拂き、富士山は金泥の濃度（純金に銅または銀を混入する割合により、金の発色が異なる）を変え、これにより立体感を盛り上げ、中天に浮かぶ雲は、焼金（金の純度が高い粉）により金砂子を多量に蒔き富士山につらなる山々は、金砂子で山容を形づけた上に、金または銀の細かい切箔を置いて、山々の遠近を強調しています。

## 三保之松原図 二曲屏風 一双

梅戸在貞筆



(右)



(左)

## 筆者の略歴

梅戸在貞は、京都の原派の別家、梅戸在勤（天保15〜大正8）の長男として、明治16年（1883）に出生。画師、朝野隆と号しました。明治37年（1904）京都市立美術工芸学校専攻科卒。大正4年（1915）天皇即位式に際

し揮毫した御所高御座床の「朝野隆景図」は代表作です。肖像画にも長じていましたが、皇族用の権原図をもつばら描きました。昭和39年（1964）81歳で死去。

また、海岸に打ち寄せる波は金泥の濃淡であらわし、三保之松原には金砂子を蒔いた上に大小の切箔を散らし、前景の松樹は、胡粉で盛り付けた上に焼金や青金（金に銀を混ぜると青味のある金色を発する）の金泥で加飾しています。



# みけつくに若狭

(その1)

若狭は、古く奈良時代以前から、若狭湾でとれた魚介(貝)や塩を、都へ送っていました。これら魚介は「御費」(みにえ、天皇のお食料)として送られており、若狭は「御食国」(みけつくに)としての伝統ある歴史を有しています。  
今回から3回にわたり、「みけつくに若狭」をテーマに、この道に造詣の深い郷土史家、永江秀雄氏からの関連寄稿を連載します。



永江 秀雄氏

福井県立若狭歴史民俗資料館  
館長・郷土史家

## 1300年前から若狭の海の幸 都へ

最近、「御食国若狭」(みけつくにわかさ)という言葉が、よく聞かれるようになりました。「御食国」とは、天皇のお食料を恒常的に貢進(献上)する国のことです。

奈良時代の「万葉集」(巻六の二〇三三)に

御食国志摩の海女ならし真熊野の

小舟に乗りて沖辺漕ぐ見ゆ

という大伴家持の歌があります。これによって、現在三重県の志摩国が御食国であったことが、よくわかります。同じく「万葉集」には、淡路国が「御食都国」「三食津国」と詠まれ、伊勢国も「御食都国」と歌われています。

昭和45年に歴史学者(現在京都府女子大学教授)の狩野久先生が、「御食国と藤氏・志摩と若狭」という論文を発表されました。この中で狩野先生は、志摩の国と歴史的によく似た特徴を持つ若狭も、御食国であることを論証されました。



県立若狭歴史民俗資料館外観=小浜市遠敷2丁目



「御食国若狭と木簡」の展示コーナー

志摩も若狭も、天皇のお食事のことを担当した豪族といわれる膳臣(かしわでのおみ)と密接な関係があること。また、平安時代に編集された「延喜式」に、天皇のお食料の「御費」を常に貢納する国として、志摩などと共に若狭も記載されていること等が、記述されています。そして、最も決め手とも申すべき事柄として、奈良の郡の平城宮やその前の郡の藤原宮の跡から出土した多数の木簡

### 奈良・平城宮跡から 若狭の木簡次々と発掘

のものとなりました。狩野先生のみならず、著名な歴史学者の岸俊男先生や鬼頭清明先生なども、若狭が御食国であることを明記されています。

若狭歴史民俗資料館では、奈良国立文化財研究所の御指導と御許可をいただき、御所跡の平城宮や藤原宮出土の木簡を複製して、今も常設展示しております。

(文・永江秀雄氏)



木簡(複製)の展示



若狭の青田・青塚から送られた 御費の木簡(複製)と解説



若狭の各地から送られた 御費の木簡の一部(複製)

今回の写真は「県立若狭歴史民俗資料館第一常設展示室」で撮影されたものを提供いただきました。なお、「木簡」は奈良文化財研究所所蔵品の複製です。



# 随筆作品募集中

福井県出身の芥川賞作家津村節子氏の随筆集「風花の街から」にちなんで、本年度から装い新たに「風花随筆文学賞」を次の要領で創設しました。

全国から広く随筆作品の応募をお待ちしています。

- 事業主体** 「風花随筆文学賞」実行委員会  
**主催** 福井新聞社、仁愛女子短期大学  
**特別協賛** (財)げんでんふれあい福井財団  
**後援** 福井県、福井県教育委員会  
**応募資格** 高校生以上  
**規定** 400字詰原稿用紙3~5枚。作品は、日本語で書かれた未発表のもの。ワープロ可。表紙に題名・氏名(本名ふりがな)・住所・職業(学校名)・年齢(学年)・電話番号を明記。応募作品の返却ならびに選考結果についての問い合わせには応じない。応募は郵送またはEメールに限る。(メールによる場合は、作品をテキスト形式で保存し、添付のこと。)

## 芥川賞作家津村節子氏の随筆集にちなんで “風花随筆文学賞”を創設

- 賞**
- ◆一般の部◆
    - 最優秀賞 1名 20万円
    - 優秀賞 若干名  
1名につき5万円
  - ◆高校生の部◆
    - 最優秀賞 1名 5万円 (図書券)
    - 優秀賞 若干名  
1名につき3万円 (図書券)



昨年行われた風花随筆文学賞授与式

- 発表** 平成15年2月末ごろ(入賞者に直接通知するとともに、福井新聞紙上で発表)
- 審査委員** 委員長 津村節子(作家)  
 委員 上坂紀夫(作家) 広部英一(詩人)  
 前田義照(県高等学校文化連盟国語部会)  
 藤野恒男(仁愛女子短期大学名誉教授)  
 山下裕己(福井新聞社文化生活部長)
- 著作権** 入賞作品の権利は、主催者側に帰属するものとする。
- 応募先** 〒910-0005 福井市大手2丁目9-10  
 電気ビル内 「風花随筆文学賞」事務局  
 TEL: 0776-20-0730  
 Eメール: kazahana@ain.pref.fukui.jp  
 ホームページ: <http://info.pref.fukui.jp/bunks/index.html>

14年度 財団助成 文化団体等 122団体 **2,594万円**



平成12年度福井ジュニア・フィルハーモニック定期演奏会  
 =12月23日 県立音楽堂(ハーモニーホールふくい)

## 本年度初の助成団体58団体

財団では、文化団体等の事業活動を支援するため平成14年度の財団助成事業を受ける団体を公募してきました。5月2日(申請事業が4・5月に実施される場合には3月29日)に申請締め切り、4月4日と5月28日の2回にわけ、「選考委員会」を開催し、厳正な審査による苦申をうけ、その結果本年度は122団体、助成総額2594万円(助成対象事業別交付額別表のとおり)の助成交付を決定しました。

今年度の決定で、14年度初めて助成対象団体に決ったのは58団体で、全体の48パーセントとなっています。

なお、本年度から無形民俗文化財保存団体及びボランティア活動団体については、「財団助成取扱規程」の一部を改正し、助成全支給制限(原則3年を限度)の規定を当分の間適用しないことになりました。

平成14年度財団助成事業別交付決定一覧

| 事業名               | 助成対象事業名        | 団体数 | 助成交付額  |
|-------------------|----------------|-----|--------|
| 地域文化の振興事業         | 郷土歴史・文化の保存伝承事業 | 18  | 3,890  |
|                   | 市民文化団体等活動事業    | 45  | 8,400  |
|                   | 文化アドバイザー派遣事業   | 4   | 1,580  |
|                   | 国際文化交流事業       | 2   | 500    |
|                   | 文化のまちづくり事業     | 11  | 2,200  |
| ふれあい及びゆとりの創造事業    | ボランティア団体活動事業   | 7   | 700    |
|                   | 各種文化サークル活動事業   | 12  | 1,200  |
|                   | 環境保全実践団体活動事業   | 7   | 1,170  |
| 芸術鑑賞機会の提供及び文化創造事業 | 芸術公演助成事業       | 1   | 200    |
|                   | 市民参加型芸術文化事業    | 14  | 4,100  |
| 福井県高等学校総合文化祭育成事業  |                | 1   | 2,000  |
| 合計                |                | 122 | 25,940 |



6/2

## げんでんふれあいコンサート ジャズ&ゴスペル

日野さん  
越智さん  
会場を魅了

教賀

財団では、「げんでんふれあいコンサート・ジャズ&ゴスペル」（日本原電協賛）を6月2日、教賀市民文化センターで開きました。公演は、2001年芸術選奨文部科学大臣賞に輝いたトランペット奏者、日野皓正さん、ジャズ歌手の越智順子さん、北野タダオ&アロージャズオーケストラ、ゴスペルバンドの「スピリットオブカラーズ」の豪華な顔ぶれで、訪れた約千人のファンは、軽快な心地よい調べを味わいました。

最初、ゴスペルバンドの澄み切った歌声で開幕。日野さんがトランペットを吹きながら登場すると盛り上がりは最高潮。日本を代表するジャズマンの演奏に会場と一体となったステージが繰



最後は全出演者がセッション、ジャズの調べとハーモニーで会場を包む＝教賀市民文化センター

## 県三曲会25周年邦楽の会

6/2

### 和の韻（ひびき）の大合奏

福井

福井県三曲会（会長・富澤和山）25周年記念邦楽の会（財団協賛）が6月2日、福井市文化会館で邦楽愛好者らが参加して盛



笛・三絃・十七絃、尺八の大合奏  
＝福井市文化会館

大に開かれました。

歌手の越智順子さんは「思い出のサンフランシスコ」など6曲を歌い上げ、最後は全出演者が舞台上に集まり、ジャズの調べとハーモニーのすばらしい共演に会場は、惜しみない拍手に包まれていました。

公演は、初めに昭和39年春、皇太子殿下ご誕生を祝して作曲されたという「二葉のかおり」を福島昭子さんの尺八独奏ではじまり、中尾都山作曲の「夜の懐」を尺八13人による合奏など尺八の奥深い音色をひびかせました。また、宮城道雄作曲の「都路」を唄、三絃、尺八の三重奏で演出し会場を盛り上げました。後半、沢井華曲院教授の石井清美先生が沢井忠雄作曲の「讃歌」と「楽」を記念演奏。最後に、同会25周年記念歌謡作、故石垣征山先生作曲の「和の韻」を富澤和山さんの指揮で、唄、三絃、十七絃、尺八で構成する55人の大合奏が「誕生」

「祝典」「発展」の3幕で表現した調べを見事に演奏し、会場から大きな拍手が送られていました。

## チベット声楽家招き 文化講演会

6/15

### 県連合婦人会と共催 トークとコンサート

福井

財団では福井県連合婦人会と共催でチベットの声楽家バイマ・ヤンジンさん（大阪府吹田市在住）を招き6月15日（土）、福井市のユ・アイふくいでコンサートを取り入れた文化講演会を開催しました。

講演は「字の読めない母へのおもい」をテーマに、チベット民族衣装をまとうて登



チベット民族衣装で母を語る  
バイマ・ヤンジンさん＝ユ・アイふくい

壇した講師は、「遊牧民で学校に通えなかった母親が字を読めないことで受けた辛い数々の経験を語り、教育は、人の生活や人生に深くかかわっていること、また日本に来て恵まれた子供達の幸せをみて、教育の大切さを痛感。故郷に役立つ使命感に応えて、小学校建設活動を続けている。」と逸話を熱く話しました。

コンサートでは、ピアニスト高瀬佳子さんの伴奏で、チベット民謡や日本歌謡「ふるさと」などを美しい声で歌い上げ、集まった約500人の聴衆から盛んな拍手が送られました。

## 第52回県現代書作家展

6/7-9

力強く多彩な  
書ずらり

福井

福井県書作家協会（宮沢牧風会長）の第52回県現代書作家展（財団協賛）が6月7～9日まで、福井市の県立美術館で開かれました。

漢字、かな、調和体・近代詩文書、前衛書、少字数、てん刻、刻字の6部門に書作家273人の作品がずらりと並び、会場を訪れた書道ファンは完成度の高い墨の美を堪能していました。うち、特別部門に出品された作家130人の中から特別賞15人が選ばれました。特別賞をうけた福井市の大木秘翠さんの作品は、変化に富んだ草書体で勢いのある線が印象的に表現。また、武生市の中村竹深さんの作品は、「葵」の一文字を和紙のじみを利用して力強く書かれていました。

訪れた人々は、墨の濃淡を使い分け、余白をうまく生かした作品にじっくりと見入っていました。



大作、力作、ずらりと並んだ現代書作家展＝県立美術館





堂々と千両役者ぶりを発揮した「子ども歌舞伎」=美浜町早瀬

午前9時ごろ、同神社で子ども会が太鼓を披露し、続いて美浜北小4・5年の女子6人がしやかな「浦安の舞」を奉納。その後、山車が神社を出発。同校4・5年の男子8人が順番に3人1組となり、山車の上の舞台で「寿式三番叟（ことぶきしきさんばそう）」を地区内日力所で繰り広げました。子どもたちは一カ月以上前から特訓してきたとあって、セリフとも堂に入っていました。

顔にひげをかき、黒の法被にわらじ姿で大名行列を再現しました。故事にちなんだイノシシは長さ4尺、高さ2尺の大きさ、わらやネツの木で作られ、大人9人が中に入って支え、子どもたちは「したんじょう」「したんじょう」と威勢よく掛け声を発しながら、先ず払い、花持ち、殿様、箱持ち、家来の順に町内を約2キロにわたって行進し、イノシシを引き回しました。最後は浄音寺境内でイノシシを子どもたちが刀で見事に成敗して、元気な姿を見せていました。



大名行列を再現した「したんじょう」行事

## こどもの日、伝統行事で沸く

### 美浜・早瀬で「子ども歌舞伎」

5/5

#### 豆役者堂々の舞

美浜

美浜町早瀬に150年以上前から伝わっているといわれる「子ども歌舞伎」がこどもの日の5月5日、同区の日吉神社などで奉納されました。さらびやかな衣装をまとった、豆役者、たちが山車の上で千両役者ぶりを披露。大勢の見物客を湧せていました。子ども歌舞伎は、江戸時代末期に地区内で伝染病による死者が相次いだため、氏神の怒りを鎮めようとしたのが始まりといわれています。

### 子ども達元気に「したんじょう」

5/5

#### 最後に、イノシシ 退治で幕

福井

県無形民俗文化財に指定されている伝統行事、福井市鹿俣町の「したんじょう」が5月5日、子どもたちが参加して、熱気に満ちた行列で始まりました。鹿俣町の「したんじょう」は朝倉氏の時代、田畑を荒らしていたイノシシを殿様に退治してもらった故事にちなみ、約450年前から続けられているといわれています。殿様役の一乗小5年の愛宕陣一君ら一乗地区の小・中学生30人が

### 福井室内管弦楽団 第13回定期演奏会

6/22

#### 古典派の名曲 優雅に披露

福井

福井室内管弦楽団（清水八州男団長）の第13回定期演奏会（財団協賛）が6月22日夜、福井市の県立音楽堂（ハーモニーホールふくい）で開かれました。公演は、2部構成で進められ、モーツァルトの「フィガロの結婚」で幕開け。バロック・古典派の名曲を優雅に奏で、聴衆を引きつけました。同管弦楽団は、1991年にモーツァルト没後200年を記念して発足した楽団で、毎年1回、定期演奏会を開催。今回はゲストとして、元テレマン室内管弦楽団コンサートマスターの



モーツァルトなど古典の調べを優雅に披露=県立音楽堂

ヴィオリニスト、榊伸司さんと福井市出身のピアニスト、栗本満子さんが出演し、ハイドンの「交響曲第六番（明）」やロッシニの「結婚手形」などを披露しました。会場を訪れた約500人は、息の合った優しい旋律にじゅくじゅくと聞き入っていました。



大正琴に魅せられ、そよ風コンサート=福井市文化会館

### 大正琴そよ風コンサート 流派を超え夢の競演

福井

5/12

流派の異なる大正琴、「琴奏会」「琴姫会」「すいせんグループ」の3グループが共演する「そよ風コンサート」（主催・同実行委員会、財団協賛）が5月12日、福井市文化会館で開かれました。このコンサートには、鯖江市内の胡弓奏者や福井市内の民謡団体とのジョイントも組まれ、また、知的障害者のグループも出演。団体の違いや障害の有無を超えた、バリアフリーのコンサート、となりました。公演は2部構成で進められ、第一部では3グループが「赤い靴のタンゴ」や「月の沙漠」などのおなじみの名曲を次々と演奏。また、「足羽ワークセンター」の大正琴クラブの6人も「小犬のマーチ・ダイアナ」を各グループに負けない演奏を披露し、会場から大きな拍手が送られました。

第二部では、胡弓や民謡踊りのジョイント演出が組まれ、フィナーレには総勢約70人が「夕焼け、小焼け」を演奏、合唱して充実したステージを繰り広げました。



# 新 財団シンボルマーク募集

当財団は、平成9年12月11日創設され、本年度は5周年を迎えることになりました。この記念すべき節目に、さらに財団事業を充実させ「ふくい」の文化の振興とふれあいとゆとりのある地域社会づくりにお役に立ちたいと願い、県民のみならずから頼まれ、信頼される財団としてのイメージを象徴する「シンボルマーク」を次の要領で公募することにしました。



財団法人 げんでんふれあい財団は福井県の美しい自然、郷土の歴史、人、生活などの地域資源を活用し、地域との交流を通して、芸術と文化の香り高いまちづくりやこれらを推進する人材の育成・交流等の事業を行う事により地域文化の振興を図るとともに、他の地域団体の活動と連携・支援することにより、ふれあいとゆとりのある地域社会の実現に寄与する事を目的としています。

## 応募資格

福井県に在住または学校・勤務先が福井県内である人(年齢は問いません。)

## 作品の規格

- (1) 台紙はA4版「シンボルマーク」カラーでデザイン、バックは白地
- (2) 応募作品は1人1点とします。
- (3) 作品をデザインした簡単な解説を添付してください。  
裏面には、氏名・住所・職業(学校名)・年齢(学年)を明記してください。

## 賞金

- 最優秀賞 1点 賞金20万円
- 優秀賞 2点 賞金5万円(1点につき)
- 参加出品者 全員に記念品(図書カード)贈呈

## 締め切り

平成14年12月13日(金) (当日消印有効)

## 応募及び問合せ先

〒914-0051 福井県敦賀市本町2丁目9-15 日本源電敦賀地区本部内

財団法人 げんでんふれあい福井財団  
TEL(0770)21-0291 FAX(0770)21-9070  
HPアドレス <http://www.Genden.or.jp>

# 財団ふれあい通信



第4回ふるさと大賞作品「落花の参道」  
小林 則男氏(鯖江市)

テーマ 第5回

ふるさと大賞 作品募集

ふるさと大賞 作品募集

ふるさと大賞 作品募集

部門 学生部門(高校生以上)・一般部門・一般女性部門の3部門

資格 1) 福井県に在住又は学校・勤務先が福井県内であること  
2) 写真の専門家(プロカメラマン)ではないこと

作品の規格 カラー・モノクロで四つ切り又は四つ切りワイドの単写真(学生は六つ切り可)

締め切り 12月13日(金) 当日消印有効

|        |                              |
|--------|------------------------------|
| ふるさと大賞 | 1点……30万円                     |
| ふるさと賞  | 3点 学生5万円1点/一般10万円1点/女性10万円1点 |
| 優秀賞    | 6点 学生3万円2点/一般5万円2点/女性5万円2点   |
| 入選     | 35点 <記念品> 学生5点/一般20点/女性10点   |
| 佳作     | 35点 <記念品> 学生5点/一般20点/女性10点   |

主催：(財)げんでんふれあい福井財団  
 後援：福井県/福井県教育委員会/敦賀市/敦賀市教育委員会  
 (社)福井県文化協議会/福井県高等学校文化連盟/福井新聞社  
 福井放送/福井テレビ/福井ケーブルネットワーク  
 協賛：福井県カメラ商組合/富士写真フィルム(株)/(株)福井フジカラー

応募先 1) 〒914-0051 福井県敦賀市本町2-9-18  
財団 げんでんふれあい福井財団  
2) 福井県カメラ商組合加盟店及び県内フジカラー取扱店

## 財団イベント INFORMATION

|                 |                                  |                 |                 |                           |
|-----------------|----------------------------------|-----------------|-----------------|---------------------------|
| 県立音楽堂5周年記念コンサート | 9/29(日)                          | 福井市・ハーモニーホールふくい | 財団協賛            |                           |
| 能楽・狂言観賞会        | 能楽師 味方玄氏 外                       | 10/2(水)         | 敦賀市・プラザ萬葉       | 観 中学生<br>夜 一般             |
| 第6回 福祉演芸会       | 立山センター・オーバー(万才)<br>林田麻友子(歌手)     | 10/22(火)~24(木)  | 県内6福祉施設         |                           |
| 県立音楽堂5周年記念コンサート | 小松亮太&タンギスツオータムライブ                | 11/4(月)         | 福井市・ハーモニーホールふくい | 財団協賛                      |
| げんでんふれあいコンサート   | つのだ・ひろ&NORAS<br>パリスロンドン ジョイントライブ | 11/10(日)        | 福井市・ハーモニーホールふくい | チケット(¥2,000)<br>9/16 発売予定 |

財団ホームページ アドレス <http://www.Genden.or.jp>